The 3rd Annual Conference of Asia-Pacific Society for Artificial Organs参加印象記

*1国立循環器病研究センター研究所人工臓器部，*2東京都健康長寿医療センター心臓外科
内藤 敬嗣*1†，西村 隆*2‡
Noritsugu NAITO, Takashi NISHIMURA

アジアパシフィック人工臓器学会（Asia-Pacific Society for Artificial Organs: APSAO）の年次総会（Annual Conference）が，2015年10月24日に韓国の江原道（Gangwondo）において開催された。会場であるHigh 1 Convention Hotel（**図1**）は，冬にはスキーリゾートとして利用される場所であり，都市部から遠方に位置している。週末のためか渋滞に巻き込まれ，仁川国際空港から会場までは車で約5時間30分の道のりであった。移動で疲弊してしまったが，到着した会場はソウルの雑踏とは無縁の場所で，落ち着いた雰囲気であった。

APSAOは2013年に設立され，年次総会は今回が3回目，初の日本国外での開催となった。大会長はYonsei UniversityのByung Chul Chang先生が務められた。APSAOは，設立から間もない新しい学会ではあるが，日本，韓国，中国，インド，アメリカから多くの医師・研究者が集まった。日本からは，東京大学医学部附属病院の小野稔先生，国立循環器病研究センターの妙中義之先生，茨城大学の増澤徹先生，東京都健康長寿医療センターの西村隆，国立循環器病研究センター研究所の内藤敬嗣の5人が参加した。

当日は午前8時から18時まで，招待講演と一般講演を併せて4セッション・17演題が，臨床医・開発研究者から発表された。韓国でのECMO（extracorporeal membrane oxygenation）の現状や開発，artificial liver and kidney，完全人工心臓（total artificial heart: TAH），補助人工心臓（ventricular assist device: VAD），アジア太平洋地域における人工臓器研究開発の潮流について，活発な議論が繰り広げられた。セッションは全て1つの部屋で行われたため，全ての演題を聞くことができ，議論のしやすい雰囲気であった。日本からの演題は増澤先生が磁気浮上型TAHについて，小野先生が日本における植込み型VADの現状について，筆者（西村）が定常流型VADにおける回転数制御システムについて（**図2**），妙中先生が日本における医療機器開発の現状について発表した。

図1　会場であるHigh 1 Convention Hotelの外観

夜にはfaculty dinnerに参加させていただいた。会場近くの韓国料理店で，各国の参加者と楽しいひと時を過ごすことができた。学会場だけでは話すことができない，各国の文化や医療制度，人工臓器の現状について聞くことができ，非常に有意義な時間であった。大会長のChang先生をはじめとした韓国人工臓器学会（Korean Society for Artificial Organs: KSAO）の先生方のホスピタリティは非常

■ 著者連絡先
† 国立循環器病研究センター研究所人工臓器部
（〒565-8565　大阪府吹田市藤白台5-7-1）
E-mail. nori.naito@gmail.com
‡ 東京都健康長寿医療センター心臓外科
（〒173-0015　東京都板橋区栄町35-2）
E-mail. takashi_nishimura@tmghig.jp

図2　口頭発表中の筆者（西村）

に素晴らしいものであった。

KSAOは今回のAPSAO開催を契機に発足した。アジア太平洋地域でのAPSAOの開催はこうした人工臓器研究の普及や啓蒙の側面からも大きな意義があると考えられる。次回，the 4th Annual Conference of APSAOは，中国の天津において，2016年8月の開催が予定されている。大会長のLiu Xiaocheng先生のもと，今年以上に素晴らしい年次総会になると思われる。アジア太平洋地域の人工臓器研究を益々盛り上げていくために，多数の日本人工臓器学会会員の方に参加していただきたい。

本稿の全ての著者には規定されたCOIはない。